



1



2



3

■N.E.blood 21.は精力的に制作、発表活動を行う東北・北海道在住若手作家を紹介するシリーズ企画です。美術館とアーティストとの新しい関係を模索しつつ、作家同士のネットワーク形成を念頭に置き複数の作家の個展を開催しています。第77回目となる本展では秋田県秋田市在住の作家草彌裕を紹介します。

草彌は1982年秋田県仙北市生まれ。2007年に東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科を修了。秋田の自然や風土を主題として写真を撮影、国内外で多数の個展、グループ展で発表し高い評価を得ています。

現代人にとってカメラとはスマートフォンを意味します。人々は「スマホ」で撮影した画像を自ら自在に加工し、虚構と現実の境界を越えた視覚世界を享受しています。その一方で、不可逆性やオリジナル性を重視する写真術の系譜が途絶えることはありません。

写真家、草彌が捉える光の痕跡は、まさにたさく間に消滅していく刹那の光景です。記憶されることがなかった様々な現象を、私たちは草彌の仕事を介して認識するとともに、視覚を超えて五感を揃える「写真の力」を再発見することになります。